

常染色体優性

多発性のう胞腎

をご存知ですか？

監修：北信総合病院 院長 洞 和彦 先生

腎臓に嚢胞が多数できる病気です

- 常染色体優性多発性嚢胞腎（ADPKD）は、腎臓にのう胞（液体の詰まった袋）が多数でき、徐々に大きくなることで腎機能が低下していく遺伝性の病気です。
- 70歳までに半数の方で人工透析が必要になると言われています。
- 30～40歳代までは、ほとんど症状が現れないことが多い病気です。しかし、嚢胞が大きくなるにつれて、お腹の周りが大きくなる場合があります。また痛みや血尿、結石、感染症などが現れることがあります。



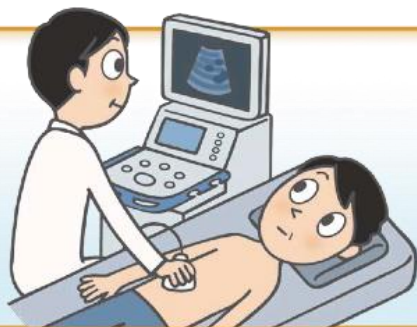
ADPKDによる腎臓の変化(イメージ)



正常な腎臓 ADPKDの進行した腎臓

検査・診断は比較的簡単です。

- ADPKDは、遺伝するタイプの腎臓病としては最も多い病気で、国内には3000人に1人の割合で患者さんがいらっしゃいます。
- 家族にADPKDの患者さんがいるかどうかや、超音波やCT、MRIなどの画像検査によって、比較的簡単に検査することが出来ます。



ADPKDは 難病医療費助成制度の対象疾患です。

- 平成27年から、難病患者さんへの医療費助成制度が変わり、ADPKDが新たに助成の対象になりました。
- ただし、認定されるにはいくつか条件がある為、検査が必要です。まずは診察を受けることをお勧めします。
- 腎機能を温存する為の治療があります。詳しくは医師へお問い合わせください。



多発性のう胞腎について気になる方は、当院にご相談下さい



Otsuka 大塚製薬株式会社

0000年0月作成
(SS0000000)